

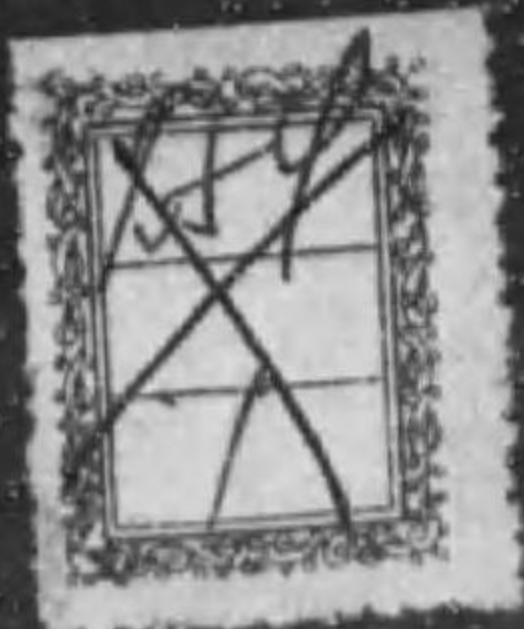
特116

684

直重
入習

姥

捨



始



47 116
684

姨捨概説

内六卷ノ三

都の者中秋明月の夜信濃國姨捨山に到りて月を賞しりける處に一人の女出で來れるより昔此山に姨を捨てたりと言ひ傳ふる舊跡を尋ね、尚さままの物語りなどいけるが、眞は我こそ此山に捨てられし女なれとて姿をかくりぬ。やありて白衣の老女現れ來り、月の盈虧につきて有為轉變の定め無き世の様などを説き、月下に遊舞の袂をひるがへしけるが、いつか旅人は歸り去りて老女のみ又此山に獨り残りけり。

大正
11. 4. 15
内交

小書 弄月舞 前後替

後シテ 老 女	前シテ 里 女	ワ キ 男	役 別	装 束 附	季	所
面姥 老女扇 姥髪 髪帯 着附指箱 白入口又(淺黄白地長絹)	面深井 髪 無色髪帯 着附指箱 無色唐織	着附段製斗目 素袍上下 紋付腰帶 扇			八	信濃國更級郡捨山
三番目	曲柄	月				
傳別習重	管音順					

姨捨

世阿彌元清作

^{ワキ男上} 月^ハの^ハ名^ハ近^ハま^ハ秋^ハあ^ハれ^ハや^ハ月^ハの^ハ名^ハ
^{次オヨク} 拍子^ニ合^フ 近^ハま^ハ秋^ハあ^ハれ^ハや^ハ姨^ハ棄^ハ山^ハと^ハ素^ハねん^ハ
^{ワキ男} カ^ハや^ハう^ハに^ハ作^ハ者^ハは^ハ越^ハ方^ハに^ハ住^ハひ^ハ伝^ハふ^ハ
 者^ハあ^ハて^ハい^ハわ^ハれ^ハ未^ハだ^ハ更^ハ科^ハの^ハ月^ハと^ハ
 又^ハず^ハ作^ハ程^ハ子^ハ此^ハの^ハ秋^ハ思^ハひ^ハ立^ハち
 姨^ハ捨^ハ山^ハへ^ハと^ハ急^ハぎ^ハの^ハ依^ハ道^ハ行^ハ上^ハの^ハ程^ハの^ハ

姨捨

暫し旅居の假枕カシ暫し旅居の
 假枕カシ又立ち出づる守宿カシの月カシし
 言カシて行く程カシにカシぞカシ又カシ負カシ
 小更科カシや姨捨カシ山カシ又カシきカシよカシけり
 姨捨カシ山カシ又カシきカシよカシけりカシも
 われ姨棄山カシ又カシきカシよカシ見れカシのカシ平
 かにカシてカシ萬カシ里カシのカシ隔カシなくカシもカシ里カシ

に隈あまの月の夜カシといカシてカシ思カシひ
 やられてカシのカシあカシらカシまカシよカシこのカシのカシあカシらカシよ
 やすらカシひカシ今カシ宵カシのカシ月カシとカシ眺カシめカシばカシもカシ
 思カシひカシのカシシカシテカシ女カシあカシらカシあカシれカシあカシるカシ旅カシ人カシの
 行カシ事カシとカシ停カシせカシのカシぞカシ罪カシんカシぶカシこれカシは
 都カシのカシ者カシにカシてカシひカシがカシ始カシめてカシ此カシのカシ前カシよ
 来カシりカシてカシひカシさカシやカシさカシやカシ御カシ子カシのカシらカシづカシくカシよ

姨捨

住む人ぞ ^{シテ} ぬれぬ此の更科の里よ
住む者にてい。今日 ^ケ はり名よ ^カ 負よ
秋の ^{ナカ} 暮る ^ト 暮る ^ト 月 ^ノ の名 ^ノ。
暁 ^ト 照 ^リ 係 ^フ 天 ^ノ の 息 ^ノ 隈 ^ニ あま ^ク 空 ^ノ 方 ^ニ の
景 ^ヲ 色 ^シ か ^ハ あ ^ら け ^に 今 ^宵 月 ^ノ の 月 ^ノ
面白 ^{カラ} らし ^ク ず ^ら ん ^ト 非 ^キ てる ^ハ 更 ^科 の
人 ^に して ^ま ま ^ま ます ^カ わ ^や さ ^と こ ^そ 古

姨捨 ^ノ 在 ^ル 前 ^ニ いら ^づ くの ^程 まで ^い ぞ
姨捨 ^山 の ^あ ま ^き 伝 ^と 同 ^は せ ^給 む ^ハ
心得 ^ぬ 我 ^ガ 心 ^慰 め ^カ ぬ ^つ 更 ^科 や ^イ ^ネ ^ト
姨捨 ^山 月 ^と かん ^て と ^詠 せ ^り
人の ^跡 あ ^ら づ ^に 木 ^ぎ さ ^の 桂 ^の
木 ^ノ 陰 ^に 昔 ^ノ 姨 ^捨 の ^そ の
あ ^ま 伝 ^に 入 ^と 非 ^キ てる ^ハ こ ^の

姨捨

木の蔭に^{シテ}して捨て置かれ^{シテ}人
の^{シテ}侘の^{シテ}そのまゝ^{シテ}去^{シテ}中に埋れ^{シテ}草
かりある^{シテ}世々^{シテ}今^{シテ}は^{シテ}昔^{シテ}語
にあり^{シテ}人の^{シテ}あ^{シテ}原^{シテ}心^{シテ}や^{シテ}道^{シテ}の^{シテ}けん
なき^{シテ}跡^{シテ}ま^{シテ}でも^{シテ}何^{シテ}と^{シテ}やら^{シテ}ん
物^{シテ}凄^{シテ}ま^{シテ}この^{シテ}原^{シテ}の^{シテ}風^{シテ}も^{シテ}な^{シテ}に^{シテ}し^{シテ}む
秋^{シテ}の^{シテ}心^{シテ}今^{シテ}も^{シテ}も^{シテ}慰^{シテ}め^{シテ}か^{シテ}ね^{シテ}つ

更科^{シテ}や^{シテ}慰^{シテ}め^{シテ}か^{シテ}ね^{シテ}つ^{シテ}更科^{シテ}や^{シテ}姨^{シテ}捨^{シテ}
山の^{シテ}夕^{シテ}暮^{シテ}る^{シテ}も^{シテ}松^{シテ}も^{シテ}桂^{シテ}も^{シテ}交^{シテ}る^{シテ}木^{シテ}の^{シテ}
緑^{シテ}も^{シテ}殊^{シテ}り^{シテ}て^{シテ}秋^{シテ}の^{シテ}葉^{シテ}の^{シテ}ち^{シテ}や^{シテ}多^{シテ}し
つ^{シテ}く^{シテ}か^{シテ}一^{シテ}重^{シテ}山^{シテ}霧^{シテ}も^{シテ}あ^{シテ}ら^{シテ}渡^{シテ}り
月^{シテ}凄^{シテ}しく^{シテ}雲^{シテ}つ^{シテ}ま^{シテ}て^{シテ}寂^{シテ}し^{シテ}ま^{シテ}山の^{シテ}
景色^{シテ}か^{シテ}寂^{シテ}し^{シテ}ま^{シテ}山の^{シテ}景色^{シテ}か^{シテ}あ
旅^{シテ}人^{シテ}の^{シテ}つ^{シテ}く^{シテ}よ^{シテ}り^{シテ}来^{シテ}り^{シテ}終^{シテ}り^{シテ}ぞ

更舎

コトれつひ前もやす如く都の志にて
ゆが更科の月と承り及び始めて
この前に来りてふよコトての故の
人よとましますかやぎあらわらふ
も同と共よ。現れ出でる接人の
夜遊と慰めやすべし。それもや
夜遊と慰めんと御才のあつある

人やらん。眞はわれ更科の者
コトて今又いつ方よ。怪み家と
いさしめこのあつ。名は一負ひたる
姨捨シテのそれといさしめ。恥しや。
それといさしめ。恥しや。その古も
捨サてられて。だカル一人このあつ。すむ月
の名の秋。毎よ執心の園と晴えん

夷舎

と今宵現れ出てたりとゆめ陰の
 木の葉よかき消すやうに失せに
 けりかき消すやうに失せにけり
 夕陰ふぐる月影の夕陰ふぐ
 る月影の夕陰ふぐる月影の夕陰
 や萬里の夕陰ふぐる月影の夕陰
 の秋も隔なき心も澄みて夜も

待上
 待上
 待上

如林

五

すがら三五夜中の新月の色二
 子星の外ホトカの古人ウシのころ
 あら面白の折マからやああら面白
 の折マからやああら面白の折マから
 きぬべし今宵の月の惜ウまの
 かみさあまだは秋待ちかぬて
 類あまカトもともち月のツキだまも

後シテ女中
 一声

柏子合ハス

庚舎

六

覺えぬ孩も隈もあまの姨捨山の
秋の月。解り又堪へぬ心とや昔と
だよも思はぬぞや。不思議やあ
まや更け過ぐる月の夜よ。白昼
の女人現れ孩よの夢か現か覚
束か受んこかあどやゆふをるよ。
現れ出でし老の姿。恥かあがら

あがりたり。行をか色み孩よらん。
固より前も姨捨の山の老女が
住み處の昔よ。悔る秋の夜の
月の友人まこみして。茶と敷ま
花よ。起ま。外す。袖の露の。も
色々の夜遊の人。いつ別れをめて
うつあや。盛あけたる。女。亭花の。

長命

拍子合

古

盛シメめメけケたタるル。女メ帝ミのノ花ハのノ葉エもモ夜ヨ志シ原ハ
たタれレてテ昔コトだダるル捨スてテられレるル程ハのノ才サ
とト知チらラずズ又マタ姨イ捨スのノ山ヤマにニ出デてテ面オモテとト
更シ科カのノ月ツキにニ見ミゆるルもモ恥ハかカしシやヤ
おオしシやヤ行イ事ジもモ夢ユメのノ世セのノおオかカあアかカ
云クはハどド思オモいイもモやヤ思オモいイ茶チ花ハよヨめメてテ
月ツキにニそソみミてテ遊ユばバしシにニ遊ユげゲにニやヤ興キョウよヨ

拍子合ふ

ひヒかカれレてテ来キりリ。真マコトつツまマいイてテ海ウミりリしシ
もモ今イマのノおオかカしシ知チらラれレたタるル今イマ宵ヨ
のノおオかカしシ知チらラれレたタるル又マタ月ツキのノ
名ナ所トコロ行イくクかカあアれレどド更シ科カやヤ姨イ捨ス
山ヤマのノ曇クモあアまマ一ヒト輪リン備ビてテるル清スガ老ロウのノ
影カゲ圓マル々々とトてテ海ウミ崎サキとト離ハるル。おオかカしシ
諸シロ佛ブツのノ御ミ誓チカエをヲ行イれレ勝マツ芳カサあアけケれレ

美言

とも仰遊世の悲新普ま影影影影影影影影
光明に志くああああああああああああああああ
光西より行く事心命命命命命命命命命命命命命命
方方よ方勸め入入れれんんががたためめししかかやや月月
はは彼の姉妹の右の脇士ととししてて
有有縁と神又導導きき重重きき罪と軽軽んん
ずずるる天上の力と得得るる故は天天地地力力至至

ととのの号号すすとととととととととととととととと
光光ああややままいい玉玉のの臺臺のの敷敷きき他他方方
のの争争去去とと取取すす玉玉珠珠樓樓のの風風のの
音音糸糸竹竹のの志志ららくくららりりどどりりにに心心ひひりり
ろろ方方ももあありり蓮蓮ををささ々々よよ咲咲きき交交るる
實實のの他他のの邊邊ににたたつつややああみみ木木のの
花花教教りりてて芳芳々々方方志志ききりりにに乱乱れれたりたり

シテ上
迦陵頻伽のたぐひあまきい聲と
たぐへて諸共よ孔雀鷄鴒の同
トく夥る鳥のおのづから光も
影もおへて至らぬ隈も
あけれべ無邊老とわな付たり。
あれども雲月のあはる時は影
満ち又或時は影飲くる有為

精愛の世の中の定めのおまきと
示すあり昔戀しき夜遊の袖
我が心慰めかねつ更にあや
姨捨山に照る月をとんで照る月
とんで月よ別れ花よ散る秋
草の露の向よ露の向よあか
あかほしに現れて胡蝶の遊び

^{シテ中}戯る^{シテ中}舞の^{シテ中}袖^{地上}返せや返せ
^{シテ中}昔の^日秋と^思思ひ^出出で^たたる^妻妻^執執の
^心心^ややる^方方も^ああ^まま^きき^今今^宵宵^のの^秋秋^風風
^牙牙^にに^志志^みみ^志志^みと^恋恋^しし^まま^はは^昔昔^志志
^のの^むむ^しし^まま^はは^閻閻^浮浮^のの^秋秋^友友^よよ^とと
^思思^ひひ^居居^れれ^ばば^夜夜^もも^既既^又又^志志^らら^志志^ら
^とと^早早^ああ^まま^よよ^もも^ああ^りり^ぬぬ^れれ^ばば

^元われも^見見^ええ^すす^旅旅^人人も^海海^のの^ああ^とと
^又又^獨獨^りり^捨捨^てて^らら^れれ^てて^老老^女女^がが
^昔昔^ここ^そそ^ああ^らら^めめ^今今^もも^まま^たた^姨姨^捨捨^山山
^とと^そそ^ああ^りり^にに^けけ^るる^姨姨^捨捨^山山^とと^ああ^り
^よよ^めめ^けけ^りり

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

大正拾一年四月拾日印刷
同 年四月拾五日發行

著者權限
不許

著者兼發行者 廿四世
觀世元滋

印刷者 檜 常之助
京都市上京區二條通麩屋町東北角

發行所 檜 大瓜
京都市神田區錦町二丁目拾番地

印刷所 江川 堂
京都市四谷區傳馬町貳丁目



終